

5-7

(発想×実行×協力) - (硬くて四角い頭) = 成功体験

ドリカムプロジェクト ～職員の参画意識を高めるために～

成功体験

柔軟な発想

特別養護老人ホーム 第二清風園

発表者：デイサービス相談員 青山 真	共同研究者：介護主任 鈴木 伸良
所在地：東京都町田市薬師台3-270-1	共同研究者：研修委員会委員
TEL：042-736-6906	E-mail：seifu@san-ikukai.or.jp
FAX：042-736-6903	URL：http://www.san-ikukai.or.jp/machida/seifu2/index.ht

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	特別養護老人ホーム80名、短期入所生活介護50名、デイサービス一般型40名、 認知型10名、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを併設している高齢者 総合福祉施設です。
----------------------------	--

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <p>○毎月開催している職員勉強会の参加率が低い</p> <ul style="list-style-type: none">参加して楽しいと思える内容を考える。与えられている傾向が強いため、自ら考えて作り上げていく。 <p>〈具体的な取り組み〉</p> <p>○とにかくやってみたい事を声に出してもらい、みんなで実行してみよう→ 「ドリカムプロジェクト」誕生！！</p> <p>〈目的〉</p> <ul style="list-style-type: none">企画書の書き方を学び、自分たちの施設は自分たちで考えて作る、という意識を養う事。自分たちでたてた企画を実践し、第二清風園で働いて良かった、という成功体験をしてもらう事。 <p>〈手順〉</p> <ol style="list-style-type: none">① 第1回目の勉強会開催。 業務改善手法（企画書の書き方）を学ぶ。② 職員より企画書の提出。テーマ別にグループを7つ分け、全職員が必ずどこかのグループに属する。 改めてグループごとに企画書の作成。③ 第2回目の勉強会開催。 中間発表を行ない、講師、参加職員から評価を受ける。④ 再度内容の練り直し。最終発表に向けパワーポイントの作成。	<p>⑤ 第3回目の勉強会開催。 最終発表をプレゼン方式で行なう。</p> <p>⑥ 職員投票を実施、1位グループには次年度に具体的な実施をしてもらう。</p> <p>〈活動の成果と評価〉</p> <p>○年間を通した研修を開催する事ができただけでなく、各グループのプレゼンと優秀作品投票といったように参加意識を高める工夫を行ない、参加した職員からも高い評価を得る事ができた。</p> <p>○何かをしてみたいという気持ちは最初から諦めず、まずは声に出し始めてみる事の大切さを学んだ。</p> <p>○他部署職員と長期間協力しながら意見交換を行なっていった事で、より一層職場内でのコミュニケーションを図る事ができた。</p> <p>○複数の部署からグループわけをしたため、全員が集まる事が難しく、役割分担が偏ってしまう事があった。また業務後に取り組む事が多くなってしまった。</p> <p>〈今後の課題〉</p> <p>○1位グループは今年度予算化して活動を行なっている。また2位以下のグループも何らかの形で、研修委員会がサポートしながら継続して取り組んでいく。</p> <p>○他施設とのコラボレーションを計画中。</p>
---	--

【メモ欄】